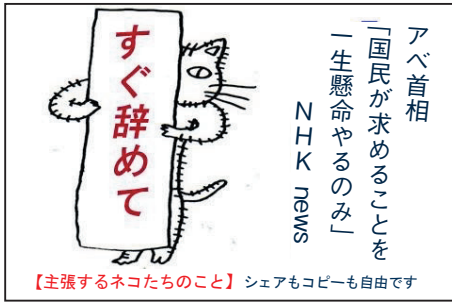


これは第3次世界大戦の 始まりかもしれない

周 立東爺



【主張するネコたちのこと】シェアもコピーも自由です

白眞弓さんがfacebookに
投稿されていた。

.....

「これ(後述)を読んで、
やっと自分の置かれている
場所が分かった。

なぜ感染予防を自分自身
が必死にしたくなかったの
かも、理解した。

(7ページに続く)

皆んなで選んだ 今月の秀句

被曝三度何を学んできましたか
非正規へコロナ首切り降りかかる
特措法いずれ貌変する魔物

岩佐ダン吉
遠田亀公子
遠田亀公子

新コロナウイルスが猛威。ワクチン開発が急務。生活は政治の仕事だが、トップの鯛が腐り、弱者を直撃する。コロナ禍の裏で日本会議政権は危機をチャンスに変える策謀。これを見抜けるか。(周)

例会案内

4月例会
投稿締切
課題「民」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

4月23日(木)

20日(月)

3句以内

5句以内

◆ 目次

川柳互選		2
課題吟「学」		2
自由吟		3
自選句・おたより		5
訂正とお詫び		5
連作 新コロナ禍		6
ほのぼの川柳		6
立入川柳		6
第3次世界大戦の始まり?		7
戦争前夜抄【石川啄木】		12
シベリア抑留の記録 ⑰		13
編集後記を兼ねて		16

3月の 川柳互選

◆課題吟「学」

一人 3句以内吐

(15人の互選)

5	学校の要請前に支援策	高坊	6	学び舎から「学徒退陣」させる策	林
5	意味のない学校閉鎖子はアホに	徹乗	6	憲法を学び真実嘘も見え	広助
5	ウイルス禍少年兵教育やり出した	大峰	6	この校舎コロナを学んで後にする	立東爺
1	首相独断子ども新型コロナに怯え	徹乗	7	通学路耳を澄まして子らを待つ	林
2	突然の学校休止で緊急事態	高坊	7	大惨事学習しない日本人	徹乗
2	学くん戦死するなよ反戦だ	白眞弓	7	アベ首相 民に学ばぬ 私利野望	宏
3	新型コロナ学校休み命令だ	広助	7	結局は何も学ばずさようなら	ダン吉
4	総理から学んだ夫婦で買収やつてのけ	大峰	7	モリカケで何を学んだ安倍総理	北の山
5	正義から政治力学縁がない	亀公子	8	コロナ禍を深く刻んだ3学期	白眞弓
5	出陣式雨降る神宮学徒たち	白眞弓	8	学びの子思考停止の籠の鳥	馬頭琴
5	宿題せずに立たされた親子を叱り	未知子	8	戦後史を学ばない国貧富の差	広助
5	独断で学ぶ権利を奪い取る	林	8	叱る人がいる幸せを子に教え	未知子
5	学徒動員の年の生まれで通す意地	亀公子	8	安倍一存児らの学びを吹き飛ばし	北の山
5	会見で子らの学びを取り上げる	立東爺	10	安倍総理何を学べばこうなるの	北の山
			10	学びなしすりかえ答弁堂々と	馬頭琴
			10	安倍さんに学んだ論法森法相	高坊
			11	戦後史を学び嘘八百の改憲論	立東爺

11	赤木遺書 真意を学ばぬアベ・アソウ	宏	馬頭琴
11	改竄をそんたくと読む政治学	亀公子	大峰
14	被曝三度何を学んできましたか	ダン吉	立東爺
◆自由吟 (互選) 一人5句以内吐 (15人の互選)			
1	新コロナ 周知ゴテゴテ 幕政かな	宏	高坊
1	スパイ衛星大陸の上を飛び回り	大峰	広助
1	麻生くん君の態度は許さない	高坊	大峰
2	これまでも日本語使えと防衛相	立東爺	馬頭琴
2	五輪延期で改憲計画頓挫する	徹乗	馬頭琴
2	アベ退任挨拶秘書に用意され	白眞弓	ダン吉
2	核の汚染水村中を埋めつくす	大峰	北の山
2	特措法付帯多くて動けない	白眞弓	北の山
2	我ら管にナースコール繋がれる	ダン吉	宏
2	記者会見怒声に会場ビビッと揺れ	白眞弓	未知子
3	休校よ門出祝えずじつと手を見る		馬頭琴
3	一強の大臣衆奴隷の様な奴		大峰
3	親教師路頭に迷わす閉校策		立東爺
3	佐川さんあなたの指示が明るみに		高坊
3	もうすでに脱輪危機の国産車		亀公子
3	外務省 原爆展へ 横ヤリを		宏
4	文春砲炸裂顔色変えぬ強い人		未知子
4	結局は野党という名の与党かな		高坊
4	金バッチ選挙違反も税金で		広助
4	森友で忖度役人首を撫で		大峰
5	見かけだけ見せかけだけの復興目指し		馬頭琴
5	今日もまた売り切れ煽るテレビ局		馬頭琴
5	点滴に耐える歴史の紫斑跡		ダン吉
5	昨日ケイタイ今日はカギです探し物		北の山
5	安倍答弁話ソラシの名授業		北の山
5	検事長 定年延長 誰れのため		宏
5	井赤木さんを忘れない 安倍内閣も忘れない		未知子

6	散り際がわからない桜にしがみつく	広助
6	本音言わない官僚の出世道	広助
6	年寄りを「蟹工船」で働かす	林
6	文春砲飛ばせ安倍のクビまでも	高坊
6	メディアの目巨悪に迫れ五輪でも	未知子
6	全責任私などがごと大見栄を	ダン吉
6	アベ・カワイ 似たもの夫婦 嘘八百	宏
6	やっぱりね目指してるのがヒットラー	ダン吉
6	子は監禁大人は外で遊んでる	徹乗
6	アンダーコントロール嘘から真生 まこと まれない	白眞弓
7	ウイルスに鉄槌食らう文明史	亀公子
7	ああ無策「コロナ疎開」に追い込まれ	馬頭琴
7	新型コロナ復興五輪浮遊する	白眞弓
8	大企業内部留保が徴 かひ てきた	大峰
8	真相に背を向けている「私と妻」	林
8	いつの間に緊急事態が盛り込まれ	高坊
8	「要請」でがんじがらめの世は危険	林

8	ウイルスがアベノミクスを踏み潰す	亀公子
8	コロナ禍に着々兵站準備する	立東爺
9	トカゲのしっぽの死など気にせぬ面の皮	徹乗
9	呪われた政権がまだ続いてる	徹乗
9	抗議の死にも他人事です人でなし	北の山
9	官邸の不条理までも読む司法	広助
10	樹を下りてヒト科は戦ばかりする	ダン吉
10	ぬけぬけと「胸が痛む」と言い放つ	林
10	夢 ゆめ 洲に 夢・希望なく ばくち道	宏
10	増えるからコロナ検査を進めない	立東爺
11	換気してもすつきりしない国会内	徹乗
11	ウイルスがこつそり近づき歳を訊く	林
14	令和史に刻む #赤木さんを忘れない	立東爺
14	非正規へコロナ首切り降りかかる	亀公子
17	特措法いずれ貌変する魔物	亀公子

（なお、3月例会は、ルート不明のウイルス感染が金沢で発生したため、投稿例会になりました。収束の様子がまだまだ不明です。）

自薦句

◆ 白薦句 中野 林

ウイルスに爆買い兵器役立たず
コロナより怖い空腹子に強いる
死の抗議さえも切り捨て御免する
忖度の限りを尽くすニュース9
旗振れど改憲列車脱線す
心さえ原発マネーで売り買います
あちこちに分身侍らせ身を守る
退陣の憂き身を見る会近づきぬ

◆ おたより 岩佐ダン吉さん（大阪）より

今日で入院も十八日。少し歩行や動作が鈍いと思います。日ましに回復には進んでいるようです。
今日、大阪の各地川柳句会は休会の続出の中で、
わが「あかつき」「岸和田」両句会は「投句方式」で
挙行。うゝん立派。仲間よありがとう。

訂正とお詫び

（掲載句↓）新コロナ手荒いマスク 学ばされ

【正】新コロナ 手洗いマスク 学ばされ 宏

（掲載句↓）力を皇帝病で隠す日々

【正】無力さを皇帝病で隠す日々 馬頭琴

【紹介出来なかった句】

学校の騒音指数ゼロにさせ 馬頭琴

（編集子より…この句が選考資料から洩れてしまいましたので紹介します。申し訳ありませんでした。）

互選のために作った資料にミスがあれば、正しく評価できません。これまでも時々ミスができました。再評価する時間もなく、会報作成時に「修正」していました。

修復不可能の句もあり、迷惑をおかけしています。今後気をつけ再発に気を付けていきます。

（編集子＝周立東爺）

ダン吉さんへ。

新型コロナで大騒ぎの中、入院とは^(*)病院では
医師も看護師も気苦労で大変なようです。病院
内感染も伝わって来ます。どうぞ気を付けて元氣に
なって、大阪の川柳界のために頑張ってください。

(11周)

●連作 新型コロナ禍 周立東爺

人類史一〇〇年ごとの感染禍

太陽神怒れコロナを模^もされたり

細菌戦マニュアル充実ウィルス禍

後手後手に会见口が回るだけ

先読みの台湾座布団二三枚

国民は銀行にお金持っている(麻生会見)

チケツトはお肉や魚と大まじめ

総理妻芸人誘って花見の宴

自粛にも議会やパチンコ密集し

ほのぼの川柳

卒園し就学までのひと休み
発表会緊張するが晴れ舞台
失敗を繰り返し人人となる
ぼけないでぼけたふりする老いの春
おっぱいみたい手づくりマスクいい気持ち
一人なら桜見満喫車中から

神田鯛
神田鯛
寿賀子
寿賀子
オニどん
東 爺

立入川柳^{たちいり}ってご存知?

君となら幸福探し何処までも

県名、県庁所在地名をさりげなく入れて
いる。「ほのぼの川柳」に句を提供されて
いる寿賀子さん(東京)の有名な立入川柳。
水戸、奈良、甲府、佐賀の四つの市が隠れ
ている。

「1ページ」白眞弓さん情報」からの続き)

つまり、「あんな人に指図されたくない」ということ。それは、彼らがきちんと今の状況を把握し、今後どうするかを示していないから、こちらも、漠然としてその漠としたものに左右されたくない気持ち働くのだ。

今、日本はこの段階か、何ヶ月くらいで収束するのか。収束とは、どういうことを言うのか、全く示されていない。

医療機関はどんな状況なのか、なぜ病院で感染が広がるのか？ 広がらない病院は、なぜなのか？

きちんとわかりやすく説明してほしい！

私もやっと、真剣に予防しようと思った！

これは、戦争なんだから！

直感的に「今、戦前」「今、戦中」と言ってきたが、本当にそうなのだから、その中で自己を保ってお上に流されずに、きちんと考えて行動したい。例えそれが、政府に同調することであっても、自分で判断したい！

政府は、正しく現状を発表して、打つ手の説明をしてほしい。

.....

白眞弓さんが読んだ「これ」というのは、【ロックダ

ウンのNZで】というホームページのこと。開設したのはハンドルネームがZKASHさんで、ニュージーランドの飛行士。今、ロックダウンで飛べない。ニュージーランドから日本を見つめている。

以下、ZKASH氏の「長いけど読んでほしい。」という文章。抜粋して紹介します。

【ロックダウンのNZで】

ZKASH

ニュージーランドは、3月26日から4週間の「ロックダウン」に入った。

2020年3月23日。NZ政府は、警戒レベルを「3」に引き上げ、さらに、48時間以内に最高レベル「4」に引き上げると発表した。これを発表するジャシンダ・アーダーン首相の演説は、まるでどこかに宣戦布告したみたいな雰囲気だった。

◆悪意のない厄災

今どき、先進国間で侵略戦争は起こりえない。なぜな

ら、武力で土地を占領するより、平和的に経済を発展させた方が、何倍も効率よく市場を手に入れることができるからだ。

ところが「戦争」は予想もしない形でやってきた。

戦争が、進化的な人口調整の役割を結果として担っていたとしたら、このウイルスの蔓延だって同じ結果をもたらすかもしれない。だれも犠牲にはなりたくないから、各国は総力をあげて生き残りを図ろうとするだろう。ひょっとしたら、我々は歴史に「第三次世界大戦」と記される日々を生きているのかもしれない。

◆ニュージーランド政府の対応

私はニュージーランドに住んでいる。ニュージーランドはウイルスの到着が遅くて、世界の例を見てプランを作る時間があった。

それでも、何が正解かわからない中で、ウイルスを封じ込めるとまず決めて、そのプランを作り、国民に説明、説明した警戒制度を順次適用してきた。今何が起きているのかを、国民に正確に把握してもらい、危機感をもってもらうために、ニュージーランド政府

のコミュニケーションはよく練られたものだった。

・2月28日に最初の国内感染者が確認されたのち、3月に入って陽性のケースが増えるにつれ、だんだんと規制が厳しくなっていく。

・3月14日には、全入国者の自主隔離（14日間）義務を発表した。

・3月17日、日本円で8000億円規模の財政出動を発表。

・3月19日、国境を封鎖。

・3月21日、4段階の警戒システムを発表。発表当時は2段階目の位置付け。

・3月23日、警戒システムを3に引き上げ、48時間以内に最高レベルの4に引き上げると発表した。

重要なのは、封じ込めという目的に対しての政府の一貫した姿勢と、国民との頻繁なコミュニケーションだ。アーダーン首相は、発表した警戒基準に当てはまる事例が出た後すぐに、2から3に引き上げ、さらに4に引き上げることを宣言した。

ウイルスの蔓延というつかみどころのない事態を可



新型コロナウイルス感染症
対策本部（第23回）

視化するために基準を作り、それを実際に運用して見せることで、一貫性を示し、首相や保健相が毎日国民の前に出てきて、わかっていること、わかっていないこと、これから起こることを自分の言葉で話すことで、国民は心理的にも物理的にも準備ができ、政府は国民に当事者意識を持たせることに成功した。

◆日本はどうだ

PCR検査の数とかオリンピックとかお肉券とかいろいろ話題に事欠かないが、事の本質はそういう個別の対応の是非ではない。どんな政策にも、誤謬はつきものだからだ。問題は、公衆衛生に大きな問題があつて、その解決をどうする、と

決められるのは政府のみであるにもかかわらず、いまだにどうするか誰も決めていないこと、よしんば、方針のよいうなものが仮にあったとしても、それを説明する文脈をもたないことだと思う。

たくさんの人が長いテーブ

ルについて、安倍首相の方をみている。部屋には、たくさんのかメラマンがいる。当たり前のことだが、会議室で安倍首相が力強くなんらかの対策を指示している映像には、国民にとつて有益な情報は含まれない。それでも、このかメラマンの数を見れば、彼らはこの絵を国民に見て欲しいと考えているのだろう。

◆都知事の会見

政府、自治体の対国民コミュニケーションが絶望的に下手であることを示す良い材料が、26日の小池百合子都知事の会見だ。

会見を見たとき、私がひっくり返りそうになったのは「オーバーシュート（感染爆発）」と書かれた緑色のパネルを掲げられたときだ。カタカナ語と、その意味が一言だけ書かれたパネルを悲しげに掲げ持つ都知事の姿をみて、脱力した。その後、怒りと苛立ちを覚えた。

横文字に日本語訳をつけて複雑にすることで、なんだか意味のある言葉のように聞こえてしまうけれど、小池知事は、パネルに「2」とか「4」とかだけ書いて発表したのとかわからない。ただの数字がそうやって

書かれていたらみんなボカーンとするだろう。彼女のしたのはそういうことなのだ。

しかもよく聞くと、実は今「感染爆発」が起こっているのではなくて、その一歩手前だと言っている。過剰な謙譲語と丁寧語で非常にわかりづらいが、下記をよく読んでみてほしい。

「——そして今週になりました、オーバーシュート・感染爆発でございますが、この懸念がさらに高まっております。今、まさに重要な局面でございます。都民の皆様方にはこのことをくれぐれもご理解いただきまして、平日につきましては、できるだけお仕事の際はご自宅で行っていただきたい。もちろん職種にもありますが。それから夜間の外出についてもお控えいただきたいと存じます。この週末でございますが、お急ぎでない外出は是非とも控えていただくとようにお願いを申し上げます。——」

「——オーバーシュート・感染爆発でございますが、この懸念がさらに高まっております。今、まさに重要な局面でございます。——」

おわかりいただけただろうか。

つまり、もし仮に「感染爆発」なる状態を4だとするのなら、今は「3」だと言っているのだ。今「3」なのに、「4」と書かれたパネルを掲げている。信じられない曖昧さだ。

やるべきなのは、蔓延の程度を定義して、今どこにいて、どうなったらレベルが上がるのか。各段階で何が制限されて、何が普段どおりなのか。予めそれを言うておいて、国民に準備期間を与えること。そして、想定した通りにレベルを実際に適用していくことだ。

◆有事の政権の職責

こんな時に国のトップでいるってことは、不運以外の何物でもなくて、どんなにうまくやってもいずれ死者が出る。ダメージコントロールしかできないことをわかった上で、あまんじて決断をしていかなければならない。

加えて、収束段階からの経済浮揚作戦はそう簡単にはいかないだろうし、回復するには長い時間がかかるから、ニュージブランド首相のジャシンダ・アーダーンは多分、次の選挙でそこを突かれて、下手をすれば、

負けるだろう。

つまり、危機対応とは本質的に貧乏くじなのだ。だから、貧乏くじを引いて、負けが確定している作戦の指揮を取り、結果責任を取って退陣する。そこまでが、有事の政権の職責であって、身を引く覚悟のない政権がことに当たって国民を護ることなどではしない。

◆タスク指向とポジション指向

ジャシンダ・アーダーンは、分際をわきまえていて、だから、批判の集まりそうな厳しい選択でも、それが必要ならできる。これをやったら次の選挙には負けるかもしれない。でも、やる。それが職責だから。これがタスク指向。

安倍晋三に、小池百合子に、これができるだろうか。オリンピックも和牛券も全部そうなのだけれど、日本の行政機関つてのは、中の人のパワーゲームが政策の全てにまわりついてるように感じる。安倍首相を筆頭に、自分の立場を守ることがまず大事で、それが保障されないと絶対に前には出てこないし、揚げ足を取られないように原稿しか読まない。

タスク指向とポジション指向という枠組みで政府の

取り組みを見ると、随分と見通しがよくなる。もちろん、完全なタスク指向、一〇〇%ポジション指向の集団はいないけれど、ニュージーランド政府の対応が、日本政府のそれよりタスク指向よりなのは明らかだ。

日本政府が危機に弱いのは、ポジション指向だからかもしれない。危機というのは、問題が待った無しに迫ってくる状態だから、ポジション指向では時間がかりすぎるし、問題の解決そのものを指向しないので、解決は常に延期される。歪みは蓄積され、耐えきれなくなれば国が破断するだろう。

そうやって、第二次世界大戦が決着したのを忘れてはいけない。タスク指向のニュージーランドだって生き残れるかどうかはわからないけれど、その時でできる最善のことを政府がしていて、国民の大半が納得していることは確かだ。

この第三次世界大戦、果たして我々は生き残ることができるのか、全く予断を許さない。

<https://note.com/anarita/n/ncb20dc32bc9d>

『戦争前夜抄』

⑮

「戦争前夜抄」は、テーマの原点とも言える明治大正の世相と文学に関わる情報として石川啄木を取り上げたい。紙面が逼迫。とりあえず啄木の詩「はてしなき議論の後」を紹介します。(周)

はてしなき議論の後 石川啄木

一九一・六・二五・TOKYO

われらの且つ読み、且つ議論を闘はすこと、
しかしてわれらの眼の輝けること、

五十年前の露西亜の青年に劣らず。

われらは何を為すべきかを議論す。

されど、誰一人、握りしめたる拳に卓をたたきて、

“V NARODI”と叫び出づるものなし。

われらはわれらの求むるものの何なるかを知る、

また、民衆の求むるものの何なるかを知る。

しかして、我等の何を為すべきかを知る。

実に五十年前の露西亜の青年よりも多く知れり。

されど、誰一人、握りしめたる拳に卓をたたきて、
“V NARODI”と叫び出づるものなし。

此処にあつまれるものは皆青年なり、

常に世に新らしきものを作り出す青年なり。

われらは老人の早く死に、しかしてわれらの遂に勝つべきを知る。

見よ、われらの眼の輝けるを、またその議論の激しきを。

されど、誰一人、握りしめたる拳に卓をたたきて、

“V NARODI”と叫び出づるものなし。

ああ、蠟燭はすでに三度も取り代へられ、

飲料の茶碗には小さき羽虫の死骸浮び、

若き婦人の熱心に変りはなけれど、

その眼には、はてしなき議論の後の疲れあり。

されど、なほ、誰一人、握りしめたる拳に卓をたたきて、

“V NARODI”と叫び出づるものなし。

(※ “V NARODI” (ヴ・ナロード 人民の中へ！)

シベリア抑留の記録

17

「在ソ三年 生と死のドラマ」
故・秋山茂氏の遺稿より

無限に近いシベリヤの森林である。この密林の入口に赤い百合の花を発見。この百合根が伐採地の我々の貴重な食糧となり、危険を覚悟で密林に足を踏み入れた。一人の日本兵が迷い込んで絶望と思われたが、奇跡的にソ連人の樵に救われた。

この事件があつてから百合球の採取はソ連から禁止されたが、生きるため目前に危険はあつても割合容易に手に入る百合根がある以上、放っておく筈はなく、各自こそそとソ連兵の眼を盗んでは掘り続けた。

私も二、三名連れだつてこの自然林に約五十米這入ったが内部の大木や朽ち倒れている巨木から一面の苔の状態などが何処も同じように見へるのが方向感覚を失う第一の原因で、視界が殆んどない上、林

縁から僅か五十米余りというのに伐採した広い林縁附近は既に見へなくなつてしまふ有様で、「あれ？ どちらから這入つて来たのだろう？」と疑問や不安にかられる時は既に錯覚に陥っている場合が多く、わたし達もこの慄然とする樹海の恐怖に襲われ早々に脱出したが、反面、可憐な花の咲いた茎を左手に掴み苔の下のかいかい土中を右手の指先でまさぐると驚く程大きな球根が採れた感触は忘れ難いものであつた。

前記の兵隊の場合、随分大声で何回も何回も救助を求め乍ら密林の内部を彷徨した挙げ句疲れ果てて死を覚悟し持っていた僅かなマッチで焚き火していたところ偶然にも樵きしりに発見されてたのだという。

7 シベリヤの恋花

捕虜も二年目ともなれば既に頭のとつぺんから足先までソ連服や靴であるし、言葉も日常用語には左程不自由しないから外見はソ連人と区別がつか

い。というのも日本人の我々が街の中を歩いてても列車に乗っても、日本とちがつてソ連人からじろじろ見られることもなく、彼等はすれ違っても振り向きもしないが、これはソ連邦が複合民族の国であると共に彼等のもつ大陸的なおらかさのせいであるらしい。然し異民族との触れ合いという面では年令や性格により可成りの差が生まれ、一般に若い積極性をもった兵隊は言葉の不自由さなど平気で乗り越へてソ連人男女と親しく話し合う仲となっていたが、反対に分別臭い三十歳過ぎの者や消極的な兵隊は傍觀者的な立場に置かれ、特に召集將校にこうした者が目だった。

入ソ当初の「還りたい！」という思いも年月の経過と共に薄らぎ、時折り強く望郷の思いが頭を擡げることはあるが、平常は大きなあきらめのうねりの中で生き続けた一九四七年五月（昭和二十二年）、マリタ地区で伐採をおえた我々は再びイルクツク市

に帰り、私共の中西中尉を長とする一隊だけ市の東南方の畑の中のゼムリアンカ（穴倉）に這入ったが、此処はもともとソ連軍の馬鈴薯の貯蔵庫の跡であった。

私共は毎日中西少尉の下でソ連兵舎や將校官舎を見て歩き、破損ガラスの入れ替え作業をしていたが、お互い一人前の硝子工になったような自惚れた気持ちで働いていた。比較的軽作業なのとじゃがいの盗み喰いのおかげで、当時は大分体力も恢復し、夜間など裸電球の暗いゼムリアンカのあちこちから笑い声がきかれるようになったのも入ソ以来幾度かの試練を越えて来た賜であつただろう。

この硝子の入れ替え作業中、私の分隊の河合という若い兵隊がソ連人の娘と秘かな愛を交わす仲となったが、捕虜との恋は法度である。然し一般にソ連の若い女性が日本人に対して相当強い尊敬と憧れを抱いていたことは、三年間の抑留中、時々見聞きしたもので、過ぐる大正七年のシベリヤ出兵時、引

き揚げ帰国する日本軍の将兵を恋い慕うロシヤ娘が多く、ソ満国境まで追いかけて来て涙の決別をしたという数々の昔話を思い出した。その原因がどこにあるかは判然としないが、彼女達の観た日本人捕虜が規律正しく知能的でよく働らく人間であつたことは間違いないだろう。

一九四五年（昭和二十年）十月、奉天（瀋陽）で別れた旧満軍の劉中佐が「日本は五十年できつと以前より立派な国になるでしょう」と私に語つたことなど思い合わせると、「なるほど」と思い当たるものがあり、連合国側の怖れるところもここではなからうか、と思われた。

河合君は二十三歳の現役の上等兵で、彼が硝子入れに行つた官舎はソ連軍航空中尉の宅で、「主人はいまモスクワで勉強中です」とその妻が語つたそうだが、その家には二十四、五歳の夫人と中尉の二十歳になる妹と二人で生活しており、河合は作業が終つてから、大いに歓待され近く遊びに行くことを

約束して来たと私に告げたが、その時の河合の顔には嬉色が溢れ、一人の日本青年といった姿であつた。「親爺さん、（兵隊は私をこう呼んでいた）また行つてくるから頼みますよ」

「氣を付けて行けよ」

思へば随分危険な賭け事である。万一、不時点呼でもあれば「万事休す」。私も当然監獄行きだろう。然し捕虜の悲しさは白昼に自由がないので、彼は独立中隊のため僅かなソ連警備兵の取り締りの緩やかなのを幸いに、ゼムリアンカに帰つてから疲れた体をおして足繁く八百米余りはなれた彼女の許に通つた。

まんもくしょうじょう

満目蕭条としたシベリヤの大広野の一隅に咲いた捕虜とソ連娘の恋の花は人の世の煩わしい波風に揺れ乍らも熱い情熱をたぎらせ一部始終をしる分隊一同もいたわるような気持ちで見守っていた。

（※見渡す限りのものすべてがものさびしい様子）

（つづく）

編集後記を兼ねて

▼高齢者も電話をガラケーからスマホに代える人が増えているが、皆さん苦勞されている。身近な人がもっている機種にするのがいい。図書館が手元にあるようなもの。活用しないのはもったいない。▼「主張するネコ」を見つけたのも手の中。便利なアプリを入れ頭の体操にも。▼「戦争前夜抄」のテーマに石川啄木と時代をまとめたのだが、新型コロナが第三次世界大戦の引き金になるかも知れず、白

4月例会のご案内（毎月第4木曜日）

- ◆例会 4月23日（木） ◆投稿〆切：20日（月）
- ◆課題「民」 3句以内 ◆自由吟：5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、ご意見などもお願いします。川柳に関する資料などもご紹介下さい。
- ◆句報を持参下さい。例会で話し合います。
- 投稿 FAX(076) 254-0762
- メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

「和川柳社」会報
会員募集しています！

同人：4000円/年
投句/購読：2000円/年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

100年毎。こんな偶然ありえる！？



者時代、大逆事件の裁判記録を調べ、冤罪を指摘し、戦争にむかう社会と対峙。次号に大逆事件、田中正造直訴事件、関東大震災を背景に紹介したい。この啄木が教科書から消えている。（周）

眞弓さんから届いたニューズランド情報を紹介した。▼啄木は函館の新聞記者時代、大逆事件の裁判記録を調べ、冤罪を指摘し、戦争にむかう社会と対峙。次号に大逆事件、田中正造直訴事件、関東大震災を背景に紹介したい。この啄木が教科書から消えている。（周）

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目 15-30（渡辺 寛）

電話 FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート＆土の音工房》《オカリナ制作》・上村彰